

I C T 授業活用教育実践

| | |
|-----------------------------------|---|
| 対 象 | 特別支援 高等部 |
| 教科・科目 | 美術 |
| 単 元 | 文化祭のポスター作り |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・デザインについての機能や効果を考え、ポスターの内容が「伝わる、伝える」ことのできるよう、表現の方法に関心をもつ。 ・iPad を使用し、文字や背景などの配色や配置を工夫する。 |
| I C T 環境 (授業で使用した機器) | iPad (生徒用 3 台) |
| 利用したデジタル教材 (アプリ、サイトのアドレス、資料など) | カメラアプリ (iPad 標準) 写真アプリ (iPad 標準) Pages (iPad 標準) |
| 授業での I C T の活用方法 と手順 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内のポスターを確認させることで、制作者の工夫した点や意図を読み取る。 ・頭に浮かんだポスターのイメージを描きとめるために、アイデアスケッチをする。 ・アイデアを基に、必要な写真やイラスト等を準備する。 ・カメラアプリを用いて、iPad に画像を取り込む。 ・Pages で文字や画像の配置や大きさなどを考えポスターを作成する。 |
| 授業の工夫 (ポイント) | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が手書きで作成した文字やイラストなどが、iPad のカメラ機能を用いることでポスターの素材として活用できるようにする。 ・各種素材の大きさや配置を、Pages で自由に変更させることで、いくつかのパターン 작품을制作させる。 ・生徒が個々に取り組むのではなく、他の生徒の作品の工夫点などを聞く機会を設け、自分の作品に生かして制作できる場を設定する。 |
| 生徒の様子 | <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なアドバイスで配色や配置等を変更し、見栄えのする作品を完成することができた。 ・特別な操作の説明をしなくても、直感的に iPad を使いこなし、積極的にポスター制作に取り組んでいた。 |

実践例

| 配当時間 | | 学習の進め方 | 指導のポイント |
|------|-----|---|---|
| 導入 | 5分 | ・本時に実施する内容を確認する。 | ・文化祭ポスターの必要性を説明する。 ・教室の明るさ、斜面台の使用を確認する。 |
| 展開 | 40分 | ・Pages を使用して、次の手順でポスターを制作する。 ① 背景を入れる。 ② 文字を入れる。 ③ イラストを入れる。 ④ 全体のバランスを確認する。 ⑤ 修正をする。 ⑥ 仕上げをする。 | ・見え方への配慮として、iPad のアクセシビリティで、画面の拡大方法や明るさの調整方法を伝える。 ・自分で考えて制作することを促す。 ・制作に戸惑いがある生徒は、文字やイラストの配色や大きさ、配置などを変更することで、作品の印象が大きく変わることを確認させ、更に改善方法のヒントも与える。 |
| まとめ | 5分 | ・本時で学んだこと理解したことなどについて、振り返りをする。 | ・生徒の発言に指導者が質問し、内容を掘り下げる。 |

評価

| | | |
|--------|---------------------|--|
| 生徒について | 生徒の興味・関心 | 文字の配色や大きさ、配置を変えることで、作品の雰囲気が大きく変わることに興味・関心を持ち、主体的にポスター作りに取り組むことができた。 |
| | 生徒の理解 | 配色や配置による見え方の違いや統一感の出し方を理解することができた。 |
| | 生徒のICTの活用度 | iPad や各種アプリの操作方法も習熟し、各自が工夫しながらポスターを制作することができた。 |
| 授業について | 事前準備の難易度 | iPad があれば容易に制作に取りかかることができる。作品のアイデアをまとめておくことで計画的に制作できる。 |
| | 指導者にとっての授業展開の難易度 | アプリの機能は一通り確認しておく必要がある。参考作品があると、導入時やアドバイスをする際に効果的である。 |
| | 授業の「ねらい」の設定は適切であったか | アプリを使用することで容易に文字や背景などの配色や配置を工夫させることができ、デザインの効果についても考えさせることができた。 |
| | 効果的な指導方法であったか | 配色や大きさ、配置の変更を容易に行うことができるデジタルデータを活用することで、生徒は主体的に作品制作に取り組んでいた。デジタルとアナログの組み合わせることで、生徒はオリジナリティ溢れる作品を完成させた。 |

<実践の感想及び反省点等>

生徒はアプリの機能を使いながら、画像の大きさ、配色、配置等を試行錯誤して制作することができた。また、配置が整った時の美しさや、色を変更して統一感がでることを経験することができた。さらに、人に「伝える」ことを意識して制作することができた。より学習を深めるためには、指導者が参考作品や配色、配置方法の見本をより多く提示できるようにしておく、生徒が自ら考えながら制作するための参考とすることができる。

指導者が iPad の個別対応をしていると、他の生徒の指導のタイミングを逃すことにつながるため、生徒全体をみる心がけが必要である。また、アプリに興味をもった結果として、その機能を使いすぎると、まとめる時間が減ってしまう。そのため、授業の中でのメリハリを付ける必要がある。